
返したくない

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
返したくない

【コード】
N9044H

【作者名】
神村律子

【あらすじ】
僕と彼女は人も羨むカップルだったが、ある日些細な事で怒鳴り合ってしまった。

僕は只今恋愛真っ只中。

会社の同僚の女の子と付き合っている。

彼女は可愛くて、気が利き、仕事もできる。

誰もが羨むカップルだ。

もちろん、やっかみや妬みもある。

それを全て2人の愛で乗り越えて来た。

将来を誓い合った。一生一緒にいようと思った。

お互いの親にも会った。皆祝福してくれた。

もうすぐ結婚する事になる。

そう思っていた。

しかし、それは僕の独りよがりだったことがわかった。

ほんのちょっとしたことで、僕らは怒鳴り合ってしまったのだ。

僕のアパートでの出来事だ。

夕食の準備をしていた時、それは始まってしまった。

「返したくない」

僕は強硬に主張した。

しかし彼女も譲らない。

「ダメよ。今すぐ返して。でないと私、もう貴方とは付き合えないわ」

「そんな大袈裟な。それ程の事なのかよ」

「ええ、それ程の事よ、私にとってはね。お金持ちの貴方にはわからないでしょうけど」

何だ、この女は。案外我が儘な女だったんだな。

僕は彼女に幻滅した。だから引き下がらなかった。

「絶対に返さない。誰が返すものか」

「絶対に返さないですって？ 何て恥知らずな。貴方がそんな傲慢な人だとは思わなかったわ」

彼女は涙声で僕を罵った。

「もう別れましょう。ここまで考え方が合わないのでは、この先幸せになれるとは思えない」

「ああ、そうだな」

僕は売り言葉に買い言葉で、そう言ってしまった。

彼女はバックを掴むと、部屋から出て行った。

僕はフーツと溜息を吐いて呟いた。

「目玉焼きをひっくり返さないだけで別れ話かよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9044h/>

返したくない

2011年1月6日14時24分発行